

酒々井町郷土研究会々報

第51号

昭和64年7月1日
酒々井町郷土研究会
編集部

年頭にあたって

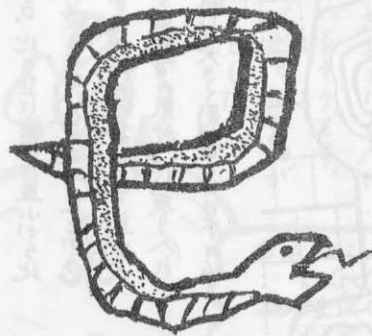
会田 秀雄

新年おめでとうございます。春はしたたり止まぬ日の光に浴し、夏は岩にしみいる蟬の声を聞き、秋には蒨にしみとなる酒を味わい、冬は寒さが肌にしみる思いをしながら雪見を楽しみ、そして一年が過ぎて行きます。早いもので郷土研も発足以来十二年の歳月が過ぎ、三年目を迎えました。

昨年は例年の色々な行事に加え読売新聞北総版の取材と千葉県教育委員会企画部広報室による映画撮影等のため多忙な毎日が続きました。会員の皆様のご協力により無事終了する事が出来ました。厚く御礼申し上げます。郷土の歴史を研究する事は今日を知るため極めて大切な事であり、お陰様で会員の皆様の努力が実を結び充実して

来た様に感じられます。又本年は町制百周年にあたり種々の行事が行われますが郷土研もこの百周年に協力してまいり度いと思っております。本会が今後益々飛

春 頌



躍発展出来ませば役員並びに会員の皆様のご尽力をお願い致します。年頭にあたり皆様の健康とご隆盛をお祈り申し上げます。

千葉姓と天女

青木 朝次

明けましておめでとうございます。昨年は、わが郷土研究会が県の教育庁に認められ、皆様方が協力

により二十分の映画になりました。今年酒々井町の町制百年にあたり、その記念事業として本佐倉城時代まつりが華々しく催される事になりましたので千葉氏誕生について簡単にのべてみましょう。

桓武天皇の四代高望王が平の姓を賜り、関東に赴任して平家が誕生する(のちに平将門が関東一円を制圧するも僅か四年で倒れる)。其の後平氏から千葉氏が現われ、大椎城、千葉猪鼻城、そして酒々井町の

元 旦

本佐倉城へと居城を移した。天正十八年小田原の北条氏と共に豊臣徳川勢に敗れ亡びてしまった。

千葉氏誕生にこんな物語りがある。大椎城が手狭まになり、猪鼻城に移った頃、城内に一本の松があり、そばに「千葉の蓮」の花が咲く美しい池が水を湛えていた。蓮の花の咲く頃は見物人で賑わっていたが、或る静かな晩、夜目にもあやに美しい天女が羽衣をまとい舞い降り、衣を池の端の松に掛けてひとり蓮の花を眺めていた。それを領主の常将(恒将)が

聞きつけ家来に命じてひそかに其の羽衣を隠させてしまった。そして天に帰ることが出来なくなった天女に言い寄って自分の妻にしてしまったと言う。翌年再び蓮の花が咲く頃、天女は男の子を産み、やがて此の瑞祥が都の天皇に伝わりと千葉の蓮になむ千葉の姓を常将に賜わったそうである。こうして領主夫人になり、地上で幸せそうに見える天女だが、或る日常将の隠していた羽衣を見つけたや天に舞い戻ってしまった。其の後常将が七くなる時に再び下界におりた。地上で果せなかつた永久の契りを天上で結ぶため常将を伴ない共に昇天したと言う。

真相はともかく、千葉氏誕生にまつわる心温まる羽衣伝説も新しい年の始めの一興でしょう。



セツテエ山考

青木 喜作

序

今年は何制施行一〇〇周年で色々な記念行事が予定されている。其の中の一つ「本佐倉城時代まつり」に参加呼びかけのチラシが入って来た。読んで見ると其の中に「当初の城域は城山(本丸)、奥の山(二の丸)、倉跡(三の丸)そしてセツテエ山からなっている」とある。特別に片仮名で書いてある「セツテエ」は何を意味するか不明で、したがって漢字の当てようがないと言ふ事か?。それではそれについて考えてみようと思いたった。

「セツテエ」が「セツタイ」か
 古老の談によると、地元の昔からの言い伝えでは「セツテエ」だったが、何時の頃か、セツテエでは何の事かわからないので、あの部は待待に關係ある所で「セツタイ」山であろう。その「セツタイ」が言葉の訛りで「セツテエ」になったのかもしれないと言ふことで、「セツタイ」が正しいとされて来たと言ふ。

今から一三〇〇年前の享政成午春三月(一八五八)に出た『成田参詣記』や大正二年(一九一三)の『印旛郡誌』にも「セツタイ」と書いてある。ところが最近某碩学の「地元の昔からの言い伝えこそ尊重されるべきで濫りに呼び変えるのは如何か」と

の言で、昨年完成した『酒々井町史』にはセツテエ山と表記されている。

セツテエとは何か

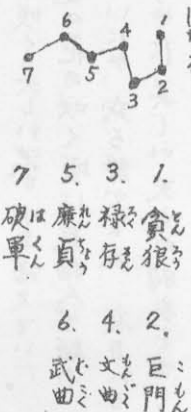
千葉氏の守護神は妙見であり、妙見は北極星と北斗七星の神格化したものである。神仏混交の江戸時代までは「妙見菩薩」として寺院に、「妙見神」として神社にと両様に祀られて来た。この妙見の本拠地である北斗七星を調らべて見る。

北斗七星

「斗」は柄杓(しやう)のことで、酒や醤油などを量る用には柄杓が用いられる。北の空に柄杓形に並ぶから北斗、七つの星で形造られているので七星という。中国では古くから信仰の対象として尊崇され、特に道教(中国特有の宗教)に取り入れられ、更に仏教にも大きく影響して日本の仏

教(道教)の中にも北斗マングラが修法される。

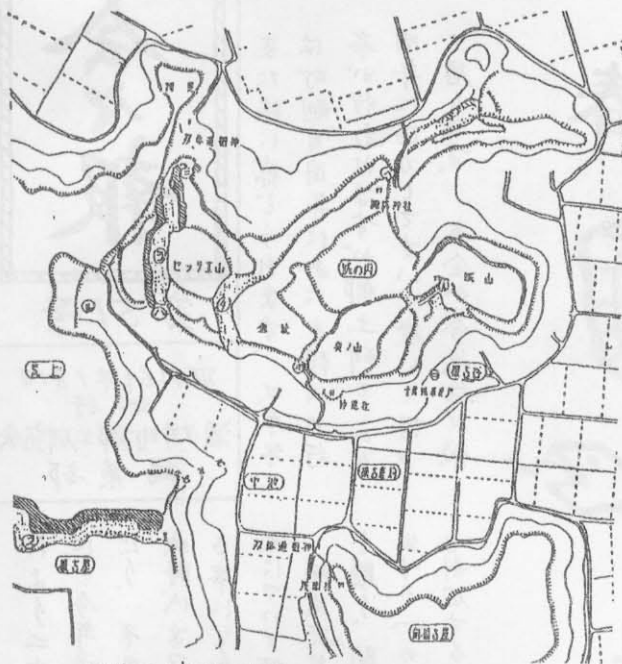
仙教(道教)による各星の名称は次のよう



石の中、5、6、7を一括して「攝提」と呼ばれる。この三星を特に攝提と呼ぶのは何故か、更に「攝提」は何を意味するかの疑問は残る。個々の星名の「廉貞」はとに角、「武曲」、「破軍」には城壁を守る何かを暗示するかのように見える。考えさせるものがある。これが「セツテエ山」の起りではないのか?

セツテエ山は「攝提山」

以上から推論すれば「セツテエ山」は「攝



本佐倉城跡図『酒々井町史』より

提山であり、出陣の際や凱旋の時の戦勝の祈願や祝賀の為の祭祀の場であったのではと考えられる。なお、現在の妙見社が、一城域の広さに比べて神域が甚だしく狭く社殿も小さい。

二、城館よりも低く、しかも城主の居館とされる奥の山(二の丸)のすぐ下に位置する。

等々の点で攝提山とは無関係ではないのならば

いか?

結

以上、極めて大胆な推論をしたが『成田参詣記』以前からの「セツテエ」「セツタイ」論があり、もっと深い処に何かあるのかわかぬ。この推論が正しいと言ふ自信はないが一応の問題提起として考察した。

なお、このことで色々の方々の御教示を頂ければ幸とする処である。

お詫びと訂正

会報50号(63年10月1日発行) No.1の押尾克巳氏の文中、一段、十四行目、元禄元年(一五〇〇年)と書きましたが(一六八八年)の間違ひです。お詫び申し上げますと共に、会報も訂正させていただきますようお願い申し上げます。

見学会 会計報告

見学会 7/11 ~ 7/17

参加者 77名

収入 1,000 x 77 = 77,000

支出 74,779

本報印刷費 4,000

印刷代 10,740

町バス使用料 16,000

残高 2,221

見学会 11/6 ~ 11/9

参加者 42名

収入 18,000 x 42 = 756,000

支出 770,477

バス代(内村道村分) 291,600

宿泊代(宿舎2分) 455,200

印刷代 4,377

ドナー 4,377

差引 -42,477

郷土研 日誌 (76~78)

日	内容	収入
10.2	石松園(大塚方面)	54
10.5	聖徳太子(伊賀方面)	7
10.8	野原の会(伊賀方面)	19
10.11	古今伝授(伊賀方面)	19
10.14	池田町長参 第3回	17
10.17	大塚方面 見学会	38
10.20	見学会	39
10.23	見学会(見学会)	14
10.26	見学会(見学会)	42
10.29	見学会(見学会)	19
11.1	石松園(小塚方面)	6
11.4	見学会	8
11.7	見学会	15
11.10	見学会(見学会)	124
11.13	見学会(見学会)	17
11.16	見学会(見学会)	27
11.19	見学会(見学会)	27
11.22	見学会(見学会)	27
11.25	見学会(見学会)	27
11.28	見学会(見学会)	27
12.1	見学会(見学会)	27
12.4	見学会(見学会)	27
12.7	見学会(見学会)	27
12.10	見学会(見学会)	27
12.13	見学会(見学会)	27
12.16	見学会(見学会)	27
12.19	見学会(見学会)	27
12.22	見学会(見学会)	27
12.25	見学会(見学会)	27
12.28	見学会(見学会)	27
1.1	見学会(見学会)	27
1.4	見学会(見学会)	27
1.7	見学会(見学会)	27
1.10	見学会(見学会)	27
1.13	見学会(見学会)	27
1.16	見学会(見学会)	27
1.19	見学会(見学会)	27
1.22	見学会(見学会)	27
1.25	見学会(見学会)	27
1.28	見学会(見学会)	27
2.1	見学会(見学会)	27
2.4	見学会(見学会)	27
2.7	見学会(見学会)	27
2.10	見学会(見学会)	27
2.13	見学会(見学会)	27
2.16	見学会(見学会)	27
2.19	見学会(見学会)	27
2.22	見学会(見学会)	27
2.25	見学会(見学会)	27
2.28	見学会(見学会)	27
3.1	見学会(見学会)	27
3.4	見学会(見学会)	27
3.7	見学会(見学会)	27
3.10	見学会(見学会)	27
3.13	見学会(見学会)	27
3.16	見学会(見学会)	27
3.19	見学会(見学会)	27
3.22	見学会(見学会)	27
3.25	見学会(見学会)	27
3.28	見学会(見学会)	27
4.1	見学会(見学会)	27
4.4	見学会(見学会)	27
4.7	見学会(見学会)	27
4.10	見学会(見学会)	27
4.13	見学会(見学会)	27
4.16	見学会(見学会)	27
4.19	見学会(見学会)	27
4.22	見学会(見学会)	27
4.25	見学会(見学会)	27
4.28	見学会(見学会)	27
5.1	見学会(見学会)	27
5.4	見学会(見学会)	27
5.7	見学会(見学会)	27
5.10	見学会(見学会)	27
5.13	見学会(見学会)	27
5.16	見学会(見学会)	27
5.19	見学会(見学会)	27
5.22	見学会(見学会)	27
5.25	見学会(見学会)	27
5.28	見学会(見学会)	27
6.1	見学会(見学会)	27
6.4	見学会(見学会)	27
6.7	見学会(見学会)	27
6.10	見学会(見学会)	27
6.13	見学会(見学会)	27
6.16	見学会(見学会)	27
6.19	見学会(見学会)	27
6.22	見学会(見学会)	27
6.25	見学会(見学会)	27
6.28	見学会(見学会)	27
7.1	見学会(見学会)	27
7.4	見学会(見学会)	27
7.7	見学会(見学会)	27
7.10	見学会(見学会)	27
7.13	見学会(見学会)	27
7.16	見学会(見学会)	27
7.19	見学会(見学会)	27
7.22	見学会(見学会)	27
7.25	見学会(見学会)	27
7.28	見学会(見学会)	27
8.1	見学会(見学会)	27
8.4	見学会(見学会)	27
8.7	見学会(見学会)	27
8.10	見学会(見学会)	27
8.13	見学会(見学会)	27
8.16	見学会(見学会)	27
8.19	見学会(見学会)	27
8.22	見学会(見学会)	27
8.25	見学会(見学会)	27
8.28	見学会(見学会)	27
9.1	見学会(見学会)	27
9.4	見学会(見学会)	27
9.7	見学会(見学会)	27
9.10	見学会(見学会)	27
9.13	見学会(見学会)	27
9.16	見学会(見学会)	27
9.19	見学会(見学会)	27
9.22	見学会(見学会)	27
9.25	見学会(見学会)	27
9.28	見学会(見学会)	27
10.1	見学会(見学会)	27
10.4	見学会(見学会)	27
10.7	見学会(見学会)	27
10.10	見学会(見学会)	27
10.13	見学会(見学会)	27
10.16	見学会(見学会)	27
10.19	見学会(見学会)	27
10.22	見学会(見学会)	27
10.25	見学会(見学会)	27
10.28	見学会(見学会)	27
11.1	見学会(見学会)	27
11.4	見学会(見学会)	27
11.7	見学会(見学会)	27
11.10	見学会(見学会)	27
11.13	見学会(見学会)	27
11.16	見学会(見学会)	27
11.19	見学会(見学会)	27
11.22	見学会(見学会)	27
11.25	見学会(見学会)	27
11.28	見学会(見学会)	27
12.1	見学会(見学会)	27
12.4	見学会(見学会)	27
12.7	見学会(見学会)	27
12.10	見学会(見学会)	27
12.13	見学会(見学会)	27
12.16	見学会(見学会)	27
12.19	見学会(見学会)	27
12.22	見学会(見学会)	27
12.25	見学会(見学会)	27
12.28	見学会(見学会)	27
1.1	見学会(見学会)	27
1.4	見学会(見学会)	27
1.7	見学会(見学会)	27
1.10	見学会(見学会)	27
1.13	見学会(見学会)	27
1.16	見学会(見学会)	27
1.19	見学会(見学会)	27
1.22	見学会(見学会)	27
1.25	見学会(見学会)	27
1.28	見学会(見学会)	27
2.1	見学会(見学会)	27
2.4	見学会(見学会)	27
2.7	見学会(見学会)	27
2.10	見学会(見学会)	27
2.13	見学会(見学会)	27
2.16	見学会(見学会)	27
2.19	見学会(見学会)	27
2.22	見学会(見学会)	27
2.25	見学会(見学会)	27
2.28	見学会(見学会)	27
3.1	見学会(見学会)	27
3.4	見学会(見学会)	27
3.7	見学会(見学会)	27
3.10	見学会(見学会)	27
3.13	見学会(見学会)	27
3.16	見学会(見学会)	27
3.19	見学会(見学会)	27
3.22	見学会(見学会)	27
3.25	見学会(見学会)	27
3.28	見学会(見学会)	27
4.1	見学会(見学会)	27
4.4	見学会(見学会)	27
4.7	見学会(見学会)	27
4.10	見学会(見学会)	27
4.13	見学会(見学会)	27
4.16	見学会(見学会)	27
4.19	見学会(見学会)	27
4.22	見学会(見学会)	27
4.25	見学会(見学会)	27
4.28	見学会(見学会)	27
5.1	見学会(見学会)	27
5.4	見学会(見学会)	27
5.7	見学会(見学会)	27
5.10	見学会(見学会)	27
5.13	見学会(見学会)	27
5.16	見学会(見学会)	27
5.19	見学会(見学会)	27
5.22	見学会(見学会)	27
5.25	見学会(見学会)	27
5.28	見学会(見学会)	27
6.1	見学会(見学会)	27
6.4	見学会(見学会)	27
6.7	見学会(見学会)	27
6.10	見学会(見学会)	27
6.13	見学会(見学会)	27
6.16	見学会(見学会)	27
6.19	見学会(見学会)	27
6.22	見学会(見学会)	27
6.25	見学会(見学会)	27
6.28	見学会(見学会)	27
7.1	見学会(見学会)	27
7.4	見学会(見学会)	27
7.7	見学会(見学会)	27
7.10	見学会(見学会)	27
7.13	見学会(見学会)	27
7.16	見学会(見学会)	27
7.19	見学会(見学会)	27
7.22	見学会(見学会)	27
7.25	見学会(見学会)	27
7.28	見学会(見学会)	27
8.1	見学会(見学会)	27
8.4	見学会(見学会)	27
8.7	見学会(見学会)	27
8.10	見学会(見学会)	27
8.13	見学会(見学会)	27
8.16	見学会(見学会)	27
8.19	見学会(見学会)	27
8.22	見学会(見学会)	27
8.25	見学会(見学会)	27
8.28	見学会(見学会)	27
9.1	見学会(見学会)	27
9.4	見学会(見学会)	27
9.7	見学会(見学会)	27
9.10	見学会(見学会)	27
9.13	見学会(見学会)	27
9.16	見学会(見学会)	27
9.19	見学会(見学会)	27
9.22	見学会(見学会)	27
9.25	見学会(見学会)	27
9.28	見学会(見学会)	27
10.1	見学会(見学会)	27
10.4	見学会(見学会)	27
10.7	見学会(見学会)	27
10.10	見学会(見学会)	27
10.13	見学会(見学会)	27
10.16	見学会(見学会)	27
10.19	見学会(見学会)	27
10.22	見学会(見学会)	27
10.25	見学会(見学会)	27
10.28	見学会(見学会)	27
11.1	見学会(見学会)	27
11.4	見学会(見学会)	27
11.7	見学会(見学会)	27
11.10	見学会(見学会)	27
11.13	見学会(見学会)	27
11.16	見学会(見学会)	27
11.19	見学会(見学会)	27
11.22	見学会(見学会)	27
11.25	見学会(見学会)	27
11.28	見学会(見学会)	27
12.1	見学会(見学会)	27
12.4	見学会(見学会)	27
12.7	見学会(見学会)	27
12.10	見学会(見学会)	27
12.13	見学会(見学会)	27
12.16	見学会(見学会)	27
12.19	見学会(見学会)	27
12.22	見学会(見学会)	27
12.25	見学会(見学会)	27

郷土研行専案内

昭和64年1月~3月

昭和64年度 総会	1月29日(日) 議事		
	午後1時 受付 午後1時30分開会 中央公民館講堂		
昭和64年度会費受付 年額¥1,000円 七草粥を食べる会 申し込み受付 会費 500円 定員 60名			
<ul style="list-style-type: none"> 63年度事業報告及び決算報告 63年度会計監査報告 63年度事業及び決算の承認について 64年度事業計画案及び予算案について 役員改選について その他 総会終了後文化映画観賞 ご多忙の折かと思いますが、万障おくり合わせの上、ご出席下さいませう お願い申し上げます。 			
	1月	2月	3月
史談会	休	4日(土) 午後1時30分(中央公民館) 古今佐倉真佐子を読む会	11日(土) 午後1時30分(中央公民館) 古今佐倉真佐子を読む会
野草の会 名勝探訪	18日(水) 午前8時20分乗車 佐倉道を歩く 京成酒々井駅一船橋駅一海神西向地蔵 一三田浜塩田跡一船橋市役所一中央 公民館(大草治碑)一行法寺一いなか地蔵 一不動院(大仏造善供養)一用泊天皇行 在所一船橋地名発祥の地一船橋東照宮	24日(金) 午前11時30分 七草粥を食べる会 中央公民館講堂 定員 60名 申し込み受付 1月29日 会費 500円 (総会当日徴収します)	15日(水) 午前8時20分乗車 佐倉道を歩く 京成酒々井駅一船橋駅一バス船橋港 一船にまり一湊町魚市場一海老川 一船橋大神宮一西福寺一太宰治 旧宅跡一旧魚市場通り一京成船橋

名勝探訪 1/8 2/5 3/5

佐倉道を歩く

佐倉道を歩く会も回を重ね、市川から船橋に移ってきた。佐倉街道は千住宿から市川を経て船橋に入るのが本街道であるが、この道の外に深川の高橋から船で小名木川と通り行徳宿に至り、そこから陸路と行徳橋を渡り八幡宿に至る道と、行徳橋から船橋の海神に入る道とがあった。筆者は、昭和三十年から二十二年間、船橋の会社に勤めていたので船橋の地理には明るい筈であるが、最近の船橋の道路の変わりようには目をみはるばかりである。旧佐倉道はほんの田舎道となり、新道が縦横に走っているのが現状である。そんな行徳道を訪ねるのも一興であるが、それは小型の自動車と走るのが最もよい方法のようである。と、いつてもそれは不可能なことであるから、今回は史化財や、見るものが多い市内を中心としてコースを選んでみた。

第一回は旧行徳道の入口であった海神の西向地蔵尊を起点として、三田浜塩田跡、船橋市役所、漁師町であり通称寺町として知られている旧湊町付近から宿場の中心であった本町通りを訪ねることとした。

第二回は、新興の船橋港から船にまり、湊町魚市場、海老川を経て、船橋大神宮、西福寺、太宰治の旧宅跡を訪ね、旧魚市場通りを歩き、京成駅に至るコースを選んできた。

相京 晴次記

編集後記

一九八九年の新春を迎えて心を新たにいたしました。酒々井町の町制施行百年祝賀行事も盛況の計画で楽しまれています。

百年ノ、目をこらしてすぎた幼き日の想い出が走馬燈の様に浮びます。飛びはねて遊んだ神社の境内や空地の広場、天空高くからそれを眺めていた、それだけの大木も朽ちて姿を消しています。小川のせせらぎも遠くなり、何年かうちに整地され、住宅地にも変わっています。

空気が水のおいしい吾が町酒々井に喜んで御住居をえらばれた皆様方とも互に手をとり、この町の歴史をのびますもつて行き度いと思つて居ります。

N子

郷土研の編集子になつて、新しい年を迎え、また一年をとりた我が身をいとおんでいる。そして心は固く、こんなことを感じたり想ったり、ねがったりする。

足跡は生きている。そして秋かに物語っている。

足跡はひたむきに歩いている。そしていたましく悶えている。でも、足跡は高らかに歌っている。どこまでも青い空に、涯しなく伸び望んでいる。

まず、郷土研を愛しよう。熱情をこめて愛しよう。

幼な子のような自分たちの足跡の中に溶けこむのだ。

やがて大きく力強くはばきたすであろう。

こんな編集子の想いをどなたか感じ

とちて下さい。そして励ましと御指導お力添えの程、今年もよろしくお願ひ申し上げます。

E子

郷土研任会五年余、ようやく酒々井の地形が分りだした。

昔の村々(今の区)のこと、お社は、酒々井中で二十五社あったといわれるが、わが住む中央台には無い。

日頃、神仏には無関心、とんと不信心の罰あたり者が、正月にこつて酒々井中の神社を初詣でせんと、下台麻賀多様から横町朝日様、中川水神様、上岩橋の大鷲、駒形、菊賀様とかけ歩いたが、こゝで日暮れ、くたびれて中止、これからは昔、酒々井中の神様とよれたいという横町の朝日様に唯一参拝しようかと思ふ。

K子

お年玉、おもち、くりきんとん、羽根つき……お正月のくろのを指折り数えて待つたのは遠い昔になりました。

年々ますます急げ心に、年迎えの準備も省略してですが、それでも何となく心せわしなかった年の暮れも明けて、静かなお正月を迎えることができません。

おきたら入ってみかんを食べて、平凡であることの幸せを感じています。

E子

町制施行百年、わが郷土研会報は五十一号となりました。因んで会報編集部御存知熟女〇人、女の揃い文としゃれたいところですが、紙面の都合上先送りとしてしました。乞御期待。

今年もよろしくおねがい申し上げます。